

中部航空音楽隊が中学生に演奏指導



隊員からさまざまなアドバイスを受ける中学生



プロの演奏技術を直接指導

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月26日（金）、グランシップ（静岡市）において行われた航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）による静岡市立大里中学校吹奏楽部への演奏指導に協力した。これは、翌日に行われる「第37回静岡音楽祭」に双方とも出演することから実現したもので、同校の吹奏楽部員59人に対し楽器のパートごとに個別指導を行った。各控室に分かれて行われた指導では、翌日の音楽祭で生徒が披露する「コンサートマーチ アルセナル」を力強く演奏する技術などを隊員が手本を見せながら指導するとともに、演奏前に行っている準備方法や演奏をする心構えなども伝えた。また、生徒から「音色を綺麗に出すための秘訣を教えてください」という質問があり、隊員は「音の色、形、重さなどを常にイメージして、その全部がそろった時にいい音が出る」と音楽家ならではの視点で教授すると、少しでもプロの技術や考え方を吸収しようと生徒たちは真剣な眼差しで指導を受けていた。静岡地本は、今後も地域や若者と自衛隊を繋ぐ活動を実施していくとともに、音楽の道を志す若者に自衛隊にも音楽を専門とした職種があることを知ってもらえるよう広報活動に努めていく。

「静岡音楽祭」で4千人を魅了



中部航空音楽隊の躍動感ある演奏



4千人の観客が一体となったフィナーレ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月27日（土）、グランシップ（静岡市）において行われた静岡県防衛協会主催「第37回静岡音楽祭」に協力した。これは自衛隊の音楽隊などが出演する県内最大規模を誇る音楽祭であり、昨年に引き続き2部構成とし、第1部では今春県内から自衛隊に入隊・入校する若者への激励会を開催。100人を超える予定者が集まり、国会議員、市長、自衛隊指揮官などの来賓を前に、代表挨拶では高校3年生の鈴木政統君（富士市出身）が「この国を守るに足る精神、体力を身に付けるよう精進します」と希望に満ちた言葉で決意を表明した。第2部の音楽祭では、静岡県所在の自衛隊部隊と地元中学校の5団体が出演し、彩り豊かな音楽の饗宴となった。出演順に、板妻駐屯地第34普通科連隊らっぱ隊（御殿場市）は、観客席から大人数でらっぱ行進するなどステージを超えた迫力のある吹奏を披露し、陸上自衛隊富士学校音楽隊（駿東郡小山町）は、「見上げてごらん夜の星を」など馴染みのある曲を演奏した。また、自衛隊との架け橋として出演した静岡市立大里中学校吹奏楽部は、大観衆を前に「ティズニーメドレー」などを堂々と奏で、中学生らしい若さを演出した。滝ヶ原駐屯地（御殿場市）の滝ヶ原雲海太鼓は、力強く生命力に溢れた生太鼓の迫力を伝え、航空自衛隊浜松基地中部航空音楽隊（浜松市）は、アンコール曲「セブテンバー」で観客と一体となって踊るパフォーマンスを披露しフィナーレを飾った。静岡地本は、今後もさまざまな機会を捉え、自衛隊への理解・協力を得つつ、隊員募集に寄与する創意工夫を凝らし広報活動に努めていく。